

# PTA会報

第38号(2008年3月1日)  
東海大学山形高等学校  
PTA  
山形市蔵王成沢西3-4-5  
TEL(023)688-3022

## 祝卒業 感謝と希望を忘れずに!

東海大学山形高等学校 PTA会長 安達久男



安達久男会長

三年生の皆さん、保護者の皆様ご卒業おめでとうございます。希望と夢を持って東海大学山形高等学校に入学してから早いもので三年間が過ぎ、もう卒業を迎える年となりました。入学した頃は、まだ幼さが抜けきれなく、親から見ても心配だった毎日。それがこうして無事卒業を迎えることができるのも、校長先生をはじめ多くの先生方が心身ともに温かく見守り、そして熱心に教育していただいたことを心より感謝申し上げます。

今、皆さんは高校三年間の思い出いっぱいでしょう。この三年間は人生の中でも一番輝いている充実している時だと思えます。それは、何よりも素晴らしい友人や勝利を目指してともに頑張った仲間、苦しい時やつらい時に支えてくれた家族や先生など、いろいろ大切な思い出が心に残っているからだと思います。しかし、これからは皆さん一人一人が自分の選んだ道を進んで行きます。不安や希望はあって当然だと思います。誰も経験したことのない皆さんの未知な人生です。失敗や不安は付きものです。問題はそれを恐れる心だと思えます。現代の社会は変動の時代だと言われています。しかしながら、人間社会の本質は変わらないと思えます。外見は変化しているようでも自分の心が落ち着いていけば自然と進んでいくものだと思います。どうか、皆さんも未知なるものを恐れずに果敢に挑戦して行って下さい。失敗は、ただ成功が先に延びたものと考えられる位に。そして、ぜひ皆さんに考えていただきたいのは、これからのような道に進んでいくても「人に感謝する気持ち」を常に

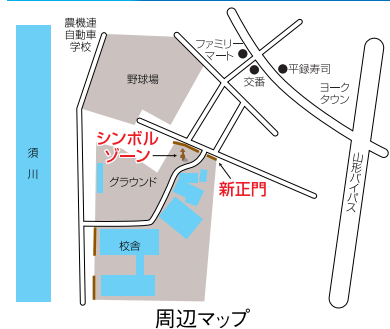
持っていたいだきたいと思えます。皆さんがこれまで生きてきたのは、少なくとも一人だけで生きてきたわけではなく、多くの人の支えがあったことを忘れないで下さい。これからの皆さんの人生が大きく輝くものであることを期待します。また、今年度までPTA連合会の当番校となったことから、今年度も連合会の活動を優先せざるを得ず、役員の皆様には大変ご迷惑をおかけしました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。ただ、私自身この経緯により多くのことを学ばせていただいたものと感謝しております。団塊の世代の大量退職・少子高齢化などが切実に教育の場にも影響が及んでいること、そして義務教育的な高校教育がまだまだ不十分な状態に置かれていることなど、保護者側もこれまで以上に学校とともに運動していく必要性を痛感しました。また、今年度齋藤山形県知事にも、直接私学の現状を保護者の立場から要望させていただきました。最後に、PTA活動にご協力いただいた会員の皆様、校長先生をはじめご指導いただいた先生方に厚くお礼申し上げます。ありがとうございます。

### 【紙面紹介】

- 1面 PTA会長のことば  
新正門・シンボルゾーン
- 2面 成田校長のことば  
各支部の活動
- 3面 3学年役員より  
(委員長・副委員長)
- 4面 3年間の思い出
- 5面 特集:  
柔道部と保護者会
- 6面 文化部活動  
編集後記

## New Information 新正門・シンボルゾーンができました!

ホームページにアクセスして下さい <<http://www.ymgt-tokai.ed.jp>>



周辺マップ



希望の塔

今年一月、新しい正門が完成しました。これまでは校舎西側に正門がありました。このたびに北側(ヨークタウン側)に新設されました。また、新しい正門脇にはシンボルゾーンが設けられ、そこには「希望の塔」が建ちました。建学の精神である「希望を星につなげ」の思いを込めて、美しく響く鐘がついています。なお、本校のホームページにも、詳しい内容を掲載しています。学校の様子がわかるさまざまな情報が盛りだくさんです。ぜひご覧ください。

# 希望

東海大学山形高等学校校長 成田 吏



成田吏校長先生

子供たちの成長は早いものです。時間の不思議さで、出産時の「苦労」や、幼児期の「病気との戦い」、幼稚園に通っているときの「可愛さ」や、小学校に入っているときの「意気さ」、高校生の「憎たらしさ」等々の経緯は、過ぎてみれば全て「思い出」となって残るのみだと思えますがいかがでしょうか。

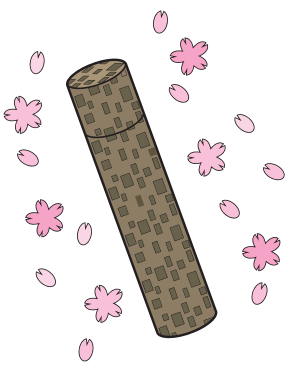
よく、評論家的に言えば「人生いかに生きるべきか」を考え、努力することが将来の豊かな人生に繋がるのだよ、と言われます。しかし、我々の人生は悩み苦しみが多く、多く、そんなに楽しく、うれしく、愉快に過ごせることは多くはないでしょう。「それが人生なんだよ、だから面白いのだよ」という恩師もおりました。

保護者の皆さんも、お子さんが高校を卒業するまでの自分の人生を振り返られるとき、「あの時こうしていれば」もっと楽しい人生だったのかな、と思うことが多々あること

と思います。そうすれば、卒業するご子息の将来により良い希望を抱けたかもしれない。そのような思いを深められている方々も多いと存じます。

子育ての段階で、高校卒業は大きなエポックになります。もうすぐ大人の世界です。自分たちの手を離れていく時期です。社会人となり、戸籍から独立して新家庭を築き、自分の子供だったのにもうその子が子育てをしている。そのような歴史がもうすぐ刻まれます。

しかし、これからも子供の人生に希望を持ちながらも、「親としての心配」は尽きることがありません。子供が三十歳になっても六十歳になろうと、心配の種はあらゆる所にばらまかれ、次々と目を出してきます。「それが人生だ！」しかし、これも、自分の人生に、子供たちの人生に、「幸多かれ」という「希望」を親として持ち続けましょう。



## PTA支部活動

### 奉仕 上山支部

#### 料理教室 山形第四支部



これで一人暮らしも安心 魚の料理教室



みゆき会病院にてボランティア





# 卒業を迎えた君達へ



## 子供の卒業にあたって

三学年委員長

青柳 繁 樹(裕介の父)

ご卒業されました生徒の皆さん、ご父兄の皆様、誠におめでとうございます。ご父兄の皆様には、この三年間PTA活動にご協力いただき厚く御礼申し上げます。

子供達が不安げなまなざしで入学式に臨んでいた姿がつい先日のように感じられます。それが、体格も態度も「でっかく」なったのを見ると「中身詰まってるよな」と、つい憎まれ口をたたいてみたくになります。自分の高校生活を振り返った時、「ちよつと背伸びし」「親の言葉をうざく思い」「いっぱしの大人の気分分で」いた様な気がしますし、息子が私に向ける態度・表情は、私が親に向けたものと、ドキッとするほど同じだったりします。学習効果がなかったな



▲先生も一緒にポーズ!

と思ったり、親が言い過ぎれば親と同じにしかならないかと反省させられています。

これからは、学生であれ社会人であれ、大人として「自己責任」の名のもと自分の行動にみずから責任を持たなくてはなりません。ただ、全てを理解し行動する事は不可能です。これから先、様々な人達との出会いの中で、助けを受け、教えを受けてこそ社会生活をあやまち無く過ごすことができると思います。

社会生活の中で、誰でもがこのような支援を受けられることはありません。東海大学山形高等学校の理念でもある「素直な心」と「感謝の心」を持つてこそ、相手から受け入れて貰える事だと思えます。

また、良好な人間関係を築くには互いのコミュニケーションが大事です。コミュニケーションの始まりは「挨拶」です。「挨拶」が素晴らしいとされる東海大学山形高等学校で学んだ皆さんです。これからも、「挨拶」「素直な心」「感謝の心」を忘れずに生活して欲しいと願っています。

最後に、子供達が学んだ東海大学山形高等学校が、現在の様な建学の精神のもと益々発展される事を心からお祈りし、また、子供達が誇りに思える学校であり続けることを心から願っております。三年間ありがとうございました。

# 充実満点!!

## レクリエーション



山形第二支部



ヤマコーボウルにて親子ボウリング大会

## 東海スタンダード

三学年副委員長

半田 好 秀(丞武の父)

御卒業おめでとうございます。私は南山形地区の黒沢に住んでおり、地元出身なので東海PTAに参加してくださいと、突然の予想もしていないことでもありました。三年間副委員長を務めてくれたのも、先生方の全面的なアドバイスと指導のおかげだと思えます。

一年時の委員長だった安達さん、副委員長の青柳さんが積極的に行ってくれましたので、私も沢山助けられ、三年間を楽しくやってこれました。落合副委員長の若さとユーモア、いっぱいの姿にもいつも注目していました。

また、蔵王駅からの登下校の時に

大勢の生徒さんと会うことができました。学生服をしつかり身につけていたことが、たいへん印象的です。これが先生方の指導する東海スタンダード運動だったのです。学校に行くこと、生徒さんから大きな声で、「こんにちは」といつも挨拶を受け、私も自然に笑顔になりました。

南山形の文化祭で、東海生の沖繩修学旅行の体験発表があったり、創立五十周年記念の祝賀会で南山形の方々の大勢の参加があったり、息子が二年の夏休みに行ったアメリカ、オハイオの一月間のホームステイへの協力、そして三年時の学園オリピックの参加と、本当にありがとうございました。

三年間の高校生活を見てみると、ゆとりを感じました。東海大学山形高等学校教職員の皆様に感謝を込め、いつまでも地元より見守っていきたいと思っています。



卒業

三学年副委員長 落合悟志(実可子の父)

卒業生の皆さん、そして保護者の皆様、ご卒業おめでとう  
ございます。早いもので三年間を終え、今日卒業の日を迎え  
られたことを共に喜び、心からお祝い申し上げます。私は未っ  
子の卒業ということもあり、子どもと一緒に親も卒業だな  
と実感しております。

思い返してみれば、あっという間の三年間でした。PTA  
役員として色々な行事に参加させて頂きましたが、大変良い  
経験をさせて頂いたなと思っております。その中でも特に懇  
親会の場では、様々な方の意見とか考え方を聞くことが出来、  
有意義な時を過ごすことが出来ました。また、先生方の面倒  
見の良さもひしひしと感じられ、改めてこの高校で良かった  
など感じたものです。修学旅行、クラスマッチ等を編集した  
DVDを見せて頂いた時などは、主人公である生徒達が皆活  
き活きして楽しんでいる姿を目にし、感動したのは私だけだ  
でしょうか。「この子がいたから  
こそこの感動!」などとつくづ  
く思っていました。

PTA活動を通して学校と関  
わり、先生方と関わり、そして  
保護者と関わり、良い経験をさ  
せて頂いたことで、学校での出  
来事、友達のこと等で我が子と  
共通の話題が出来たものです。  
本日、我が子と一緒に卒業致  
します。



▲3年前の入学式

最後になりましたが、二人の  
娘たちが合せて六年の間、東海  
大山形にお世話になり、また面  
倒を見て頂き誠にありがとうご  
ざいました。ここに東海大学山  
形高等学校の益々のご発展と、  
今日卒業された皆さんの大いなる  
希望と夢が現実となり、素晴  
らしい人生を送られることを心  
よりお祈り申し上げます。



3年間の思い出

修学旅行・体育祭・学園オリンピック



楽しかったオーストラリア



初めての沖縄でみんなウキウキ!



体育祭  
力走を応援!



学園オリンピック・スポーツ部門  
いざ出陣!



学園オリンピック・国語部門  
頑張って取り組んでいる姿





# 2007年9月29日 建学祭・文化部バザー開催



いらっしゃい！大盛況のよりどりみどりバザー

## 文化部活動 建学祭に参加して

文化部長 樋口 徳四郎

私たち文化部のメインイベントは、建学祭でのバザーを行うことです。

その為に、何度か役員会を開き、準備を進めます。最後に全校生の父兄に、バザー品の提供を求め、皆様のご協力により昨年度と同じ位に品物を集めることが出来ました。また、卒業生で上山で青果店を営んでいらっしゃる方のご協力もあり、農産物も豊富に揃えることが出来ました。次に行うのは、値段を付ける作業です。主婦の感覚で、欲しいものは安く、興味のないものは適当にと、手際よく進めていただきました。

今年の建学祭は、九月二十九日に行なわれました。昨年はあいにくの大雨だった為、良い天気になることを願っていたところ、当日は天候に恵まれ、ほっとしました。

職員駐車場の一番良い場所をお借りし、生徒たちの元気な声に負けじと大きな声でお客さん呼び込み、思ったよりも早く完売しました。お客さんとのやりとりや、役員の方々の会話を楽しみ、和気あいあいとした時を過ごすことが出来ました。子供たちだけでなく、私にとっても大きな思い出です。

三年間、建学祭に参加させていただき、高校の学園祭というのは、中学校の文化祭とは比べものにならない位大規模なもので、生徒たちが考え作り上げて行くものだと思えました。自分の役割を持って行動する子どもたちが、とても大人びて見え

ました。その姿を見て、親たちも少しは手伝って、盛り上げていかなければならないと思いました。そういう意味でも、親が参加出来る建学祭は、すばらしいアイデアであると思います。今後も末長く続いて行く事を願っています。また、ぜひ父兄の皆様も、子どもたちの頑張っている姿を見に来ていただきたいと思

います。最後にりましたが、運営するにあたり、担当の先生方、役員の皆様、父兄の皆様にお世話になり、大変感謝しています。ありがとうございます。

文化部の活動が、益々充実したものに なりますことを願っております。そして、これからもご協力のほど、宜しくお願い致します。

文化部の活動が、益々充実したものに なりますことを願っております。そして、これからもご協力のほど、宜しくお願い致します。



▲これっていくら？文化部会議

### 編集後記

三年前の息子の入学後、何となく役員の覚悟をしつつ、広報部なら「楽そうだ」と軽い気持ちでお受けしてしまい、気がついたら部長という大役を仰せつかっておりました。誰かがやらなくてはいけないが、まさか私が？と言うのが正直な気持ちでした。しかも、部員の方たちも全員が「素人」。今年は大丈夫かな？と年度当初は思いましたが、皆様のお力を存分に発揮しての大奮闘でした。読んで下さる皆様も暖かい気持ちで楽しんでいただいている様子ですね。これからの広報部の方も「東海魂」を発見し、紙面を飾ってくださいますようご祈念申し上げます。ありがとうございました。

広報部長 吉田 雅昭



アイデアを出し合い熱心に編集に取り組む広報部のみなさん▲